

陳述書

2020年2月21日

佐賀地方裁判所 御中

住所 久留米市
氏名 堤 静雄

久留米の一市民である私に意見陳述の機会を与えて下さった裁判官の皆さんに感謝します。
私は大学の数学科(専攻は位相解析)を卒業し、2007年に高校数学の教員を定年退職しました。

1 福島の子野さんからのメール

2011年3月11日の福島第一原発事故発生からわずか2,3日後に、私は福島の宇野朗子さんからメールをもらいました。それには「全国のみなさん、私達の原発反対運動が弱かったために全国の皆さんにご迷惑をかけました。すみません。」とありました。東京電力の社長でもなく、経産省の大臣でもなく、それまでずっと福島県庁で原発反対のアピールを続けて来られた宇野さんからの謝罪のメールです。宇野さんは福島第一原発を止めて事故を防ぐということができなかった自分の非力を詫言っているのです。私はこれを読んで、驚きと緊張で全身が寒くなりました。そして、ささやかなりとも原発に反対して来て良かった、玄海原発反対の署名を数人集めた程度の些細な運動ですが、して良かった、もし反対してなかったら、宇野さんに対して生きて行く資格が無くなるどころだったと思いました。そして、これからは、原発反対に頑張ろう、孫とゆっくりと遊ぶことも、趣味のピアノの練習をすることもあきらめようと決意しました。(宇野さん:2012年8月17日玄海全基差止裁判第2回口頭弁論原告意見陳述者)

2 市民運動の組織ができる

福島第一原発事故発生年の9月に、私が心待ちにしていた「さよなら玄海原発の会・久留米」という市民団体が結成されました。結成したのは井上義昭さんでしたが、翌年に病気で亡くなられたので、以来、会の代表を私が務めています。

3 久留米市内のポスティング

会として、講演会や映写会を時々しています。特徴的なことは、久留米市内の全家庭に原発反対のチラシ配布を計画したことです。当初、人口30万人の久留米市を全部回ることは、自分が生きている間には無理だろうと思っていましたが、多くの会員の協力で昨年の11月に目的は達成できました。今は、久留米に隣接する小郡市や佐賀県のみやき町などにも配布しています。配布の途中、玄関先や庭先で出会う方からは、よく「お疲れさん」とか「お世話でございます。」という言葉をもらい、国民の多くが原発には反対であることが実感できます。つい先日には拍手をもらいました。その間、会員が増えるという良い成果もありましたが、自宅に変な電話もかかってきました。「このチラシ配布は違法行為なので、証拠としてこのチラシを警察に提出する」、「俺の家にこんなチラシを入れるな」とも言われました。今後は入れませんからお名前をと訊くと、「お前に名前なんか教えられん」と言われたので「それでは次回に省くことができません」と言うと、しぶしぶアパートの名前を言われました。「原発が全部止まって電気が足りなくなったらどうする」と恐い声の電話もありました。当時は全部止まっていたので、その旨を言うと、「本当か、お前は全国の原発を回って確かめたか。」と言われたので、確かめてはいませんが、疑われるなら新聞社に電話してください、どの新聞社でもいいですよ、と言いました。そうすると彼は話題を変えました。電気料金のことや温暖化のことも言われたので、長い時間をかけて丁寧に説明しました。そうすると、「匿名の電話をしてすまなかった」と小さな声を最後に電話を切られました。

4 久留米もトリチウムの被害

久留米は玄海原発からおおよそ70kmです。元純真短期大学講師の医学博士の森永徹さんが玄海原発と白血

病の関係を調査されました。(発表は、2015年7月 日本社会医学会総会)もともと、佐賀県、特に佐賀県の沿岸部は白血病が多い地域でした。それは、原発とは関係ないHTLV-1ウイルスによる成人T細胞白血病が沿岸部に多いからです。森永さんはその影響を差し引いて、玄海原発の稼働開始の10年後から玄海原発の周辺では近いほど白血病が増えていることをつきとめました。それによると、人口30万人の久留米市では玄海原発の稼働で毎年6人が玄海原発が排出するトリチウムで亡くなっていることとなります。久留米も決して玄海原発の被害と無縁ではありません。このことを広く久留米市民にも知ってもらいたいので、トリチウムの学習会をしたいと考えています。トリチウムはたまり続ける福島第一原発の汚染水をどうするかを考えるうえでも重要なテーマです。また、この1月に、たんぼぼ舎からもらったメールによると、伊方原発の付近でも白血病が増えているそうです。原発の中でも加圧水型の原発は特に多くのトリチウムを輩出しているの、同じ加圧水型の玄海原発も早く止めて欲しいです。つい先日、北海道電力が泊原発で31年間も排気しているトリチウムの量を半分として報告していたことが露呈して社長以下取締役会が謝罪会見を開いた、と北海道の仲間から連絡がありました。九州電力は大丈夫でしょうか。

5 汚い方法で補償費をける東電

原発から避難している福島の人、東電との補償交渉の席で、東電の社員から「税金から出るお金なので」と言って値切られるそうです。(NHK テレビ「廃炉への道」16年11月6日)これは何ということでしょうか。福島第一原発事故による補償金は東電が工面すべきなのです。それを国に建て替えてしてもらっているのです。それなのに国民の税金から出ること理由として値切るなんて人間として許されない発言です。しかし、東電の個々の社員の方は悪気はないのかもしれませんが、東電そのものの姿勢が根本的に誤っているから、自分たちの暴言に気づいてないのでしょう。社員を人間として誤らせていること、これも東電の罪です。東電には3つの誓いというものがあるそうです。(「原子力資料情報室通信」19年3月)①最後の一人まで賠償貫徹 ②迅速かつきめ細やかな賠償の徹底 ③和解仲介案の尊重。私にはどれも守られていないようで、読んでいるこちらが赤面したくなります。企業は利益を追い求めるだけでなく、社会的な責任を果たすことも求められる時代です。この社会的な責任は私達との話し合いの場を、いろいろ難癖をつけて設けようとする九電にも求めたいと思います。

6 未来への責任

江戸時代から続く久留米市のある酒造屋には「この世は子孫からの借りたもの」と壁に貼ってあります。素晴らしい言葉だと思います。面白いことに、この言葉は、日本から遠く離れたアメリカの先住民にもあるそうです。私達がこの地球に生きていられることは、たくさんの偶然に支えられています。その一つは水が低温になるほど重くなるのではなく、例外的に4℃の水が最も重く、それより下がると逆に軽くなることです。この例外的な性質がなかったら氷は海底から凍り始め、海底での生物は生存ができなくて、人類が地球に誕生することが無かったでしょう。このように偶然に守られている地球環境を人類のエゴで壊してはいけません。

7 裁判所は正義の砦

昔、テレビで水戸黄門という番組がありました。その中では毎回のように不正を働いて金儲けする悪人が登場し、藩の要職にある役人とグルになって善良な町人や村民を苦しめていました。しかし、番組の最後には必ず黄門様が登場し、悪人たちを成敗していました。今の日本はどうでしょうか。今の日本は法治国家です。黄門様のようなスーパースターが突然現れて不正を正す時代ではなく、裁判所が事実と科学的な論理によって不正を正すべき時代です。是非、三権分立の1つである裁判所が正義を取り戻してください。

どうぞよろしくをお願いします。